

# 化学教育 徒然草



## — 今こうしていること —

YAMADA sunao

山田 淳

(公財)九州先端科学技術研究所 研究所長  
日本化学会 終身会員



巻頭言

「教員は教え育て、学生は教わり育つ」という人と人との相互作用は、学校に限らず、家庭、近所、会社等あらゆるコミュニティの中で進行するものであり、それらの総体として人の成長がある。人生まさに一生勉強である。2年ほど前に、約40年にわたる大学での教育研究（化学）生活を終えた。振り返れば、大学1年時のクラス担任は錯体化学の先生で、何かとお世話になった。高校時代は数学と化学が好きだった。数学がすごくできるクラスメイトに刺激されて矢野健太郎さんの本を読んだりした。無限に展開するような有機化合物の不思議さにも魅せられた。一方英語や国語は「欠点」という苦い思い出もある。中学校時代は数学と理科が無性に好きだった。小学校時代の夢は「発明王」で、竹で作った「バケツ掛け」で何かの賞ももらった。父は小学校の理科の教員で、時折望遠鏡を持ち帰って庭で天体観測会を催したりしていた。それを覚えているのは、何度か手伝いをしたからであろう。

これらの経験から、自分がなぜ大学教員になったのかを紐解くことができそうではある。もっとも上記の経験は今までの人生のほんの一部であって、それ以外の田畑の手伝い、喧嘩、囲碁、麻雀、恋愛、飲み会、旅行、結婚&家族などなど、多くの経験およびそれらの相互作用は、それぞれの経験に付帯する喜怒哀楽、感動や失意などの感情も加えたビッグデータとしてとらえることができるかもしれない。しかしこれらの記憶の強弱を支配する要因は何か、感性はどのように醸成されるのかについてまで答えられるほどの見識はない。

さて、これらの掘り起こすことができる膨大な経験データが記述できれば、自分が今こうしていることをAIは予測し得るのだろうか？ それとも異なる人生を予測するだろうか？ だとしたらどのような情報の過不足が人生を変えることになるかについても知ってみたい。生まれ変わったら何になりたいかと尋ねられても未だにはっきりとは答えきれないが、シンギュラリティまでは待ちきれそうにない。ともあれ、教わったことの有難さ、教えたことの充実感は日に日に強くなる気がする。

[連絡先]

814-0001 福岡県福岡市早良区百道浜 2-1-22 (勤務先)